SAITAMA TRIENNALE 2016

# さいたまトリエンナーレ2016
# 最新情報のお知らせ

共につくる、参加する芸術祭「さいたまトリエンナーレ2016」は
9月24日から12月11日まで開催しています。
隔週で最新情報をお届けいたします。

**Topics**

■１ ： いよいよオープン！ 《ホームベース・プロジェクト さいたま 2016》 始動
■２ ： 多和田葉子、来場！ 旧民俗文化センターで朗読パフォーマンスを開催
■３ ： ロングフィルム・シアターで観る長尺映画の世界
■４ ： ディレクター芹沢高志による会場ガイドツアー

## ■１ ： いよいよオープン！ 《ホームベース・プロジェクト さいたま 2016》 始動

Photo: Koichiro Kutsuna, Arecibo

### 「ホームベース・プロジェクト」とは？

「ホームベース・プロジェクト」とは、アーティストのアナット・リトウィンが2006 年にニューヨーク（ブルックリン）で創設した「ホーム(家)」とは何かを探求する、移動型の国際アーティスト・イン・レジデンス・プロジェクト。空き家や遊休施設を活用し、一定期間アーティストの「家」と見立ててさまざまな活動を行うことで、日常生活におけるアーティストと芸術の役割を発展させることを目的としています。

10 年目の節目となる今年、さいたまトリエンナーレ２０１６ のスペシャルエディションとして、国内外 8 名のアーティストが参加し、約4 週間の滞在制作を行います。

11月3日（木・祝）より、いよいよその成果を発表する**「オープンハウス」**を開催。すべての方々をアーティストの「ホーム」へお招きし、各部屋での作品鑑賞、アーティストと茶話会などの交流の場を設けます。「東玉社員寮」がアーティストの「ホーム」へと変貌する姿をお楽しみください。

## ■１： いよいよオープン！ 《ホームベース・プロジェクト さいたま 2016》 始動

### ホームベース・プロジェクト
### 参加アーティストメッセージ

私たち参加アーティストたちは、世界各地からさいたま市の岩槻に続々と到着し、今回の活動と発表の場である「ホーム」＝東玉社員寮についに集結、仮の「ホーム」をつくりながら、新作のここでしかできない作品の制作が始まりました。今まさにアーティストの「ホーム」へと、変貌を遂げつつあります。

先日は、近隣の方々が新しいアーティスト集合のスタートを祝って居間に集まってくださいました。食卓も彩り豊か、自家栽培の野菜やホームタウンから持ち込んだレシピなど多彩な文化が入り乱れ、夜も更けると、まさにホーム・パーティとなっていきました。

作品制作の第一歩は、お互いの作品を知ること。それは制作プロセス、独自の視点、さらには自己と他者のような正反対のものを形作る境界をたどること。一体何がホームを形成し、何がホームの延長である都市を取り囲むのか。

また、埼玉県立近代美術館において子どもたちを対象に『旅・家』と題したワークショップを開催、子どもたちが新たな視点で帰宅ルートを観察できるようなナビゲーションツールを作りました。記憶に基づいた地図、日誌、望遠鏡、ものさしなど。

そして、さらに別の日に我々は、1799年に建てられた「岩槻藩遷喬館」や「時の鐘」、「岩槻城址公園」、東玉雛人形工房等を訪ねましたが、さいたまの物語と歴史はまだまだ語り尽くせません。
私たちの「ホーム」は11月3日のオープニングイベントで公開します。ユニークなアーティストたちによって生まれ変わったホームやいくつものプログラムを楽しみに是非お越しください！

## ■１： いよいよオープン！《ホームベース・プロジェクト さいたま 2016》 始動

**【ホームベース・プロジェクト概要】**

**●オープンハウス**

会期：11月3日（木・祝）～12月11日（日）　※定休日：水曜、11月7日（月）～11月9日（水）

時間：10:00～18:00（入場は17:30まで）

会場：東玉社員寮（さいたま市岩槻区本町 3 丁目10-2）

**●オープニング・イベント**

11 月 3 日（木・祝） 12:00～

**●ホームベースフェスティバル**

11月 3 日（木・祝）～ 6 日（日）

ホームベースサロン（茶話会）　12:30～

アーティスト・トーク、ツアー　　16:30～

**参加アーティスト**

**Room1　飯島 浩二（日本）**

**Room2　アナット・リトウィン（イスラエル）**

**Room3　テクラ・ボーヴェン（ベルギー）**

**Room4　マシャ・ズスマン（ウクライナ）／ヴァレリィ・ボロチン（ウクライナ）**

**Room5　平野拓也（日本）**

**Room6　マルティンカ・ボブリーコヴァー（スロヴァキア）／オスカー・デ・カルメン（スペイン）**

**（Co-Producer）　ニッキ・ヘンドリックス（オランダ）**

## ■２： 多和田葉子、来場！ 旧民俗文化センターで朗読パフォーマンスを開催

多和田葉子《L字の部屋》｜2016年　Photo: Koichiro Kutsuna, Arecibo

**多和田葉子の世界にふれる、体感する**

会場となる旧民俗文化センター内の「場所の記憶」をたどりながら、多和田葉子自身による朗読パフォーマンスを行います。同会場では、著名な小説家でもある多和田葉子が、さいたまトリエンナーレのために書きおろした新作テキストを含む“文学インスタレーション”3作品を展開。多和田葉子の世界観を、展示とパフォーマンスの両面から鑑賞できる特別なイベントとなります。

日時：11月6日（日）　14:00〜16:00
定員：25名（申込み制、先着順）
会場：旧民俗文化センター内（さいたま市岩槻区加倉5-12-1）
イベントの詳細はこちらをご覧下さい

## ■３：　ロングフィルム・シアターで観る長尺映画の世界

『フタバから遠く離れて 2016 総集編』　｜2016年　©2016 Documentary Japan, Big River Films

**「ロングフィルムシアター」とは？**
さいたまトリエンナーレの「長尺映画」上映プロジェクト。上映の機会が少ない長尺映画にスポットをあて、「未来」と「生活」をキーワードに厳選した国内外の長尺映画を上映します。各回上映終了後には、ゲストを招いてのトークイベントも開催。ロングフィルム・シアターは、映画館の暗闇の中でスクリーンに映し出される日常を追体験し、さいたまトリエンナーレのテーマ「未来の発見！」を考察する時をつくりだします。

● **『雪の轍（わだち）』**　11月4日（金）
上映時間　13:00～16:16 （チケット販売12:00～）
トークゲスト　佐々木敦（批評家）
出來谷英剛（ラジオパーソナリティー：すまいるエフエム「デッキーの映画CaaaaN!!」）

● **『わたしはロランス』**　11月5日（土）
上映時間　13:00～15:48 （チケット販売12:00～）
トークゲスト　松川莉奈（ing!!所属／2015年度LGBT成人式＠埼玉実行委員会代表）
芹沢高志（さいたまトリエンナーレディレクター）

● **『0.5ミリ』**　12月2日（金）
上映時間　13:00～16:16 （チケット販売12:00～）
トークゲスト　新郷由起（ノンフィクション作家）
稲田豊史（編集者・ライター）

● **『フタバから遠く離れて 2016 総集編』**　12月3日（土）　※英語字幕付
上映時間　13:00～16:15 （チケット販売12:00～）※途中休憩あり
トークゲスト　公式WEBサイトで発表

各回上映の詳細はこちらをご覧ください
（会場はいずれもユナイテッド・シネマ浦和）

## ■4： 芹沢ディレクターによるガイドツアーを開催

ガイドツアー風景｜2016年

### より作品を知る、より作品をたのしむ

多くの方からの要望に応え、一般来場者向けに芹沢ディレクターによるガイドツアーを開催。共につくる、参加する芸術祭のきっかけとして、気軽に参加できるよう申込不要としました。今後も定期的に開催を予定し、1日で主要3エリアを巡るツアーも予定しています。ディレクター自らが定期的にガイドをする珍しい企画で、来場者にとってアート作品とふれあうまたとないチャンスです。

●芹沢高志ディレクターによるガイドツアー
開催日：10月30日（日）
旧民俗文化センター　13:00-14:30　集合場所：旧民俗文化センター回廊前
市民会館おおみや　15:30-17:00　集合場所：市民会館おおみや入口
申込不要／無料

今後の予定　※変更の場合は公式WEBサイト等に掲載いたします
11月6日（日）　11月12日（土）　11月19日（土）　11月20日（日）　11月23日（水・祝）
12月3日（土）　12月4日（日）

# 参加アーティスト一覧

| | | |
|---|---|---|
| 秋山さやか<br>（日本） | アイガルス・ビクシェ<br>（ラトビア） | チェ・ジョンファ<br>（韓国） |
| 藤城光<br>（日本） | ダニエル・グェティン<br>（スイス） | 日比野克彦<br>（日本） |
| ホームベース・プロジェクト<br>（NYC、ベルリン、エルサレム、さいたま）<br>※出身地ではなく開催地 | 磯辺行久<br>（日本） | 日本相撲聞芸術作曲家協議会<br>JACSHA<br>（鶴見幸代、野村誠、樅山智子）<br>（日本） |
| 川埜龍三<br>（日本） | オクイ・ララ<br>（マレーシア） | ロングフィルム・シアター<br>（日本） |
| アダム・マジャール<br>（ハンガリー） | 松田正隆＋遠藤幹大＋三上亮<br>（日本） | 目<br>（日本） |
| 向井山朋子<br>（日本） | 長島確＋やじるしのチーム<br>（日本） | 新しい骨董<br>（山下陽光、下道基行、影山裕樹）<br>（日本） |
| 西尾美也<br>（日本） | 野口里佳<br>（日本） | 岡田利規<br>（日本） |
| 大洲大作<br>（日本） | 大友良英＋Asian Music Network<br>（日本） | 小沢剛<br>（日本） |
| ウィスット・ポンニミット<br>（タイ） | ソ・ミンジョン<br>（韓国） | サイタマ・ミューズ・フォーラム<br>SMF<br>(Saitama Muse Forum)<br>（日本） |
| ダンカン・スピークマン＋<br>サラ・アンダーソン<br>（イギリス） | 鈴木桃子<br>（日本） | 髙田安規子＋政子<br>（日本） |
| 多和田葉子<br>（日本） | マテイ・アンドラシュ・<br>ヴォグリンチッチ<br>（スロヴェニア） | アピチャッポン・<br>ウィーラセタクン<br>（タイ） |
| ユン・ハンソル<br>（韓国） | | |

＊１０カ国より３４アーティストが参加／４８アートプロジェクトの展示

# 【さいたまトリエンナーレ２０１６開催概要】

テーマ「未来の発見！」

127万もの人々が生活するさいたま市に、世界に開かれた創造と交流の現場をつくりだそうとする国際芸術祭。テーマは「未来の発見！」。アートを鑑賞するだけでなく、共につくる、参加する芸術祭です。土地の歴史やまちの構造を想起させる、市内のさまざまな場所が会場となります。国内外のアーティストたちの多様で多彩な想像力に触発されて、私たちはさまざまな未来を夢見ていく。日本を代表する生活都市から生まれる、想像力の祭典をお楽しみください。

さいたまトリエンナーレ２０１６　ディレクター　芹沢高志

---

会期：　2016年9月24日（土）～12月11日（日）[79日間]

※定休日=水曜（ ただし11/23（水・祝）は開場、翌11/24（木）は閉場）

主な開催エリア：　与野本町駅～大宮駅周辺
武蔵浦和駅～中浦和駅周辺
岩槻駅周辺

主催：　さいたまトリエンナーレ実行委員会

ディレクター：　芹沢高志（P3 art and environment統括ディレクター）

---

各種記者発表資料は、
さいたまトリエンナーレ２０１６公式Webサイト内の
「プレス向け」（https://saitamatriennale.jp/press）よりダウンロードいただけます。

---

■お問合せ先■
さいたまトリエンナーレ２０１６ 広報担当（大久保・西山・河西・鈴木・森田）
〒330-0063 浦和区高砂2-8-9ナカギンザビル さいたまアートステーション
tel 048-711-8390 （月～金11:00-18:00） / fax 048-824-5361
press@saitamatriennale.jp